

JIA2050 カーボンニュートラル連続セミナー第3期第1回（篠節子 先生、金城優 先生、伊志嶺敏子 先生） Q&A Report

No.	質問ソース	質問内容	回答
1	パネルディス カッション	（伊志嶺） 沖縄はいつも風が吹いている（これは他地域ではないことである。） 。それを、暑さを避けるために活用している。	_____
2	パネルディス カッション	（金城） 日本における伝統的木造住宅の歴史が1～7地域にあるのに対し、沖縄は違っている。	（篠） 「災害に対し強い」ことをどこの地域でも考える必要がある。8地域（沖縄）のみが特別ではない。  （伊志嶺） 沖縄の住まいづくりの歴史はシェルターの歴史でもある。加えて美的感覚にも「骨太なもののほど美しい」文化的考えがあり、それと省エネ基準に鑑み、違和感を覚える。
3	パネルディス カッション	（金城） 木造の技術は日本の貴重な財産である。しかし、沖縄にはそれが残っていない。一つの原因が、「米琉技術者座談会」（1960年代）に出てきたもので、コンクリートを用いてシェルターを作る考え方が、広まったと考えられる。	（篠） 沖縄以外でも、想定しうる風雨に対応するべく基準作りをしている（例；宮崎県）。ただ、この異常気象が多い中、どこでも災害に対しての強靭さを考える必要が出てきた。これは1～8地域すべての問題である。
4	パネルディス カッション	（篠） 沖縄の家は地域によって違うのですか。	（金城） 違います。考え方も違っています。気候の違いから台風に対する考え方も違っています。  （伊志嶺） 島々の住民の気質、土地の性質も違います。
5	パネルディス カッション	（伊志嶺） 全国一律の法律では地域にマッチしないことがあります。地域の特殊性も考慮する必要があると思います。	_____
6	Q&A	緩衝領域は環境矯正手法としてどのように機能させることで快適性を高めているのでしょうか。	（伊志嶺） 例えば、サンゴ礁は波浪、風の緩衝領域であり、屋敷林も風の緩衝領域になる。断熱ではなく、「やわらげる」考え方で対応するのが良いのではないかと。
7	Q&A	沖縄の住宅の設計では、熱射遮断のため、防風網や緑地の確保など、外構も含め設計するのが一般的ですか。	（伊志嶺） 影がごちそうという考え方があるので、そのためにもできるならば行います。

JIA2050 カーボンニュートラル連続セミナー第3期第1回（篠節子 先生、金城優 先生、伊志嶺敏子 先生） Q&A Report

8	Q&A	<p>沖縄で木造といった場合に沖縄建材材の供給状況はどうですか。九州産材等を使うことはあるのでしょうか。</p>	<p>（伊志嶺）ほとんどが九州産材です。最近は本土の建売木造住宅が増えてきていますが、台風の問題、湿気の問題が起きています。通気層に台風時、風が入り、屋根を持ち上げる例もあると聞いています。省エネ基準に合致することでリスクが生じています。</p>
9	Q&A	<p>沖縄地方の建物の開口部は開放的ですが、夜間害虫ややぶ蚊の対策はどうしているのですか。</p>	<p>（金城）網戸で処理します。高さによって蚊が飛ばない場合もあります。海岸の住戸では風が強いので蚊が入ってこないこともあります。</p> <p>（伊志嶺）夕方に蚊が入ってくるが、時間が過ぎると入ってこない。蚊の付き合い方はできています。</p>
10	Q&A	<p>NHK 連続ドラマ「ちむどんどん」に出てくる住戸の周囲のたたずまいは印象的です。周囲の緩衝領域を考える場合、土地の共用という考え方はあるのでしょうか。</p>	<p>（伊志嶺）プライバシーのグラデーション（庭があり、軒下があり、表座、裏座で構成される）が緩衝領域を形成しています。これにより、付き合いを気まづくことを避けています。隣地境界の隙間は風の道であり、評価が高い場所になります。</p> <p>（金城）町的に考えると、コモンスペースはそれぞれが集まる場所は設定されています。ただ隣地境界はお互いの力関係で決まるところはあります。</p>